

紀学同窓会報



34号 令和3年9月1日 和歌山大学教育学部同窓会 題字：大岡 皓崖 デザイン：山口 信郎

母校の歩みと共に



紀学同窓会会長
岡村周成

会員の皆様には、コロナ禍で大変な状況の下、いかがお過ごしでしょうか。様々な困難との折り合いが付き、日常が戻って来るまで、残念ながらもまだ時間が必要な状況にあるようです。

尚、平素は、当会の活動にご理解とご支援を賜り有難うございます。さて、長年にわたり当会の役員として貢献して頂いた中井澄明氏がこの度、同窓会会長を勇退されることとなりました。これまでのご功績に深く感謝申し上げます。尚、当会顧問として引き続きご指導頂きます。さらに、本部・支部役員を退任された方々へも感謝申し上げます。今後とも本会の活動にご支援のほど宜しくお願い致します。

そして、新任役員の方々には、ご多忙にもかかわらずお引き受けいただき有難うございました。様々な課題が多い時期ですが一致協力して乗り越えていきたいと思っております。よろしく願います。改めまして、私はこの度新会長を拝命することになりました岡村周成です。諸先輩方には及びませんが、当会の継続・発展のために一生懸命頑張りたいと思っております。どうかよろしく願います。

さて、我が母校は明治八年（一八七五年）の和歌山県師範学校の開設以来一四六年の歩みを続けて来ましたが、戦後の昭和二十四年（一九四九年）に発足した新制和歌山大学としては七二年目となり、母校の全史の半を占めようとしています。

私は昭和三十八年度学芸学部入学生（十五期）でした。この学芸学部（Liberal arts）の名称は、新制大学発足に当たって、軍政下での旧師範学校教育への反省から幅広い教養・学際領域の教育・研究をおこなうことを本旨として命名されたものでした。それもあってか、当時の校風は自由な雰囲気の流れ「真砂の奇人・変人」とも呼ばれた個性豊かな

な名物教員が何人もおられ、エピソードにはこと欠きませんでした。私の卒業時には教育学部と改称していた当学部は、昭和六十年（一九八五年）栄谷に移転統合し、三十六年が経過しました。新制大学発足以来の歩みの半ばを閉めるまでになり、「真砂」は、我が青春の思い出と共に遠くになりました。

現在の真砂の地には附属小・中学校や県立博物館・美術館が整備されていますが、煉瓦造りの正門（赤門）と根上り松にかつての面影を残しています。かつて、吹上や高松地域に形成されていた砂丘列に、永年の風雨にさらされ根元が大きく露呈した「根上り松」が群生し、紀伊国名所図会にも取り上げられていました。

昭和三十三年に「岡山の根上り松群」として八株が和歌山県の天然記念物に指定されました。しかし、様々な要因により、かつてグラウンド北端に威容を誇っていた老樹が残っているのみです。この老樹の保全事業には当会も支援を続けています。（別稿にて記載していますので、ご覧下さい。）

さて、紀学同窓会は昭和五十年（一九七五年）の和歌山大学教育学部創立百周年記念式典・祝賀会後に開催された奥山同級会連合大会において、紀学同窓会再結成の機運が高まり、規約改正、支部の結成、会費徴収等、様々な苦勞の末、昭和五十四年には会報を発行、さらに会員名簿の整備等の本格的に各事業を進め今日に至っています。

この間、社会情勢の変化に伴い教員養成系大学・学部には大きな変革があり、同窓生が抱く「想い出も」当然ながら各期生の間にはいくつかの違和感が生じます。分けても新制大学下での真砂世代と栄谷世代の間には、当然ながら、それぞれの「追憶」には大きな段差が生じています。紀学同窓会員としての意識の共有化を図る上でも留意すべきことだと思えます。

これらを鑑みれば、組織の強化上でも、今後の執行役員のスムーズな世代間交代が当会の課題の一つとして挙げられと思います。さらに、県外会員の在住地域の分布は変遷を重ねており、既設の県外支部だけではカバー出来ていない現状にあります。支部活動の充実推進のためにも、空白地域での新設等の対応が必要な時期だと思えます。

本会の目的は、会員の互助親睦と母校の発展を図ると明記されています。従いまして、激しい社会情勢の変化の渦中で「不易流行」に取り組んでいる和歌山大学を支援していくためにも、和歌山大学同窓会（四学部同窓会連合体）としての活動及び支部での他学部同窓会との合同事業等の活動を推進していかなければならないと思えます。

今後とも、会員の皆様方のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

ポストコロナ時代の新しい教育へ向けて



和歌山大学長 伊東千尋

紀学同窓会並びに会員の皆様には、日頃より本学の教育研究活動に多大なご理解とご支援を賜り、衷心より感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は未だ収束せず、不本意ながら昨年からの継続して実施しております感染拡大防止のための対応が本学の大きな課題となっております。既に六月二十日に解除となりましたが、四月二十三日に大阪府に対する三度目の緊急事態宣言が発出された際には、新学期開始時から続けておりました対面授業を遠隔授業に切り替える措置をとりました。本学の学生の約六割が大阪府を通過して登学している状況を鑑みての対応でしたが、久しぶりに学生が溢れ、語らい、学ぶ理想のキャンパスが戻ってきたと喜んでおりましたところ、一ヶ月と経たずに、このような状況に陥っ

てしまったことは残念でなりません。六月二十日の宣言解除を受け、一部を除き対面授業を再開し、これにより、再びキャンパスに学生が戻ってまいりましたが、大阪府はその後まん延防止等重点措置が取られており、本学としてはこの事態を重く見て、感染防止に努めているところです。

この新型コロナウイルス感染症への唯一の積極的対策が、ワクチン接種です。本学も、本学を含む和歌山県内の高等教育機関の学生、構成員に対して職域接種を実施すべく準備を進めておりますが、政府発表のようにワクチン供給の問題があり、この稿を認めている時点では、接種日時を確定できておりません。本学としましては、政府のワクチン政策を注視しながら、希望者に対して一日も早い接種ができるよう対応してまいります。

さて、この新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、これまでの日常でコミュニケーションの基本であった、人と人とが直にあって話すという行為が抑制されるようになりまし。教育においても、このような観点から、遠隔授業等のICTを活用した教育が重視されています。和歌山県独自に進められた政策と、時を同じくして推進された国の施策であるギガスクール構想により、児童・生徒一人に一台の端末が準備され、ICT教育の環境が整い、コンテンツ開発とICTスキルの増進が急務となってきました。和歌山大学では、情報処理教育、AIを含むデータサイエンス教育について積極的に進めており、つい最近、本学で進めているデータサイエンス教育のエントリーレベル講義である「データサイエンスへの誘い」が、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されました。今回、短期大学を含む大学と高等専門学校の一校のプログラムが認定を受けましたが、国立大学は本学と岡山大学の二校のみであり、本学のプログラムの先進性と充実度の高さを表す良い指標となっております。さらに、

教育学部附属学校を中心として教育におけるICT活用を進め、モデルとなる施策を展開しております。このような本学の取り組みにおける蓄積を生かし、県下の小中高等学校におけるICT

T活用の促進について、一般のデジタル化推進の政府方針に沿って立案いたしました和歌山大学DX推進計画の中へ進めてまいります。この一環として、海南市教育委員会様と「海南市の小中学校におけるICT活用推進のための教育環境整備に関する共同研究」の契約を結び、小中学校におけるICT活用のモデルケースとなり得る効果的なICT活用を研究していくこととしていきます。

今後も、和歌山県における唯一の国立大学としてその役割を果たすことができるように努めて参りたいと考えます。皆様には変わらぬご理解とご支援を賜りたくお願い申し上げます。最後になりましたが、紀学同窓会のご健勝・ご活躍をお祈り申し上げます。

校章の変遷



師範学校



青年師範学校



女子師範学校



和歌山大学



現在

Society5.0時代を担う

教育学部を目指して



教育学部長

本山 貢

紀学同窓会および会員の皆様方には、平素より教育研究活動に多大なご尽力をいただき心から感謝を申し上げます。

さて、二〇一九年度末から全世界に猛威を振るっている新型コロナウイルスの蔓延は、ここまで長期化するとは予想もしておらず、未だに終息する兆しがないこと、また和歌山県内の学校現場では大きな痛手となってしまいました。また和歌山大学の授業も約一年半にわたって遠隔授業が継続され、やつと二〇二一年七月から対面授業を再開することができました。教育学部は実技や実験・実習など対面でしか得ることが難しい授業が複数あることから、教育の質保証が危惧され、教育の質を低下してしまう状況に追い込まれてしまったのも事実です。さらに教員養成を担う学部として、教育実習は欠かすことができません。二〇二〇年度は附

属小・中・特別支援学校や和歌山市教育委員会、県教育委員会と複数回協議し、教育実習への理解と協力を促すとともに、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底して行い、実習を完了することができました。他大学では教育実習を中止せざるを得ない状況に追い込まれたという非常事態もあったようです。和歌山大学は文科省が示す教育実習特例を活用しなくても何とか実習を乗り越えることができましたことは不幸中の幸いであったと思います。

私は、学部長に就任して三年目となります。日々学部の将来像を見据えて悪戦苦闘し、その責務を痛感しながら学部の舵取りをしています。今、教育学部にとって一番の課題は、学部定員とカリキュラム改革です。学部改革により令和元年度には、学校教育教員養成課程のみの一学年一六五名が在籍す

る学部になってしまいました。和歌山県の人口規模からして教育学部定員はやや多いのが実情です。今後、和歌山県は子どもの数の減少に伴う教員需要の低迷時期を迎えます。和歌山県の教員需要は、ここ二〜三年をピークに今後五から六年後には教員募集が今よりも半減していくことが推測されています。このような状況を踏まえ、文科省は学部の定員を見直し、地域の規模に合わせた教員養成機能を果たすようにとの指示です。ただし、和歌山県の地域課題、たとえば極小規模化する学校現場で活躍する教員養成、採用、研修の一体的な改革を行い、さらにカリキュラム改革や学部の特徴等を明確化できるのであれば大幅な定員削減はしないという指示です。和歌山県の教育を担う責務と自覚をもって現在模索しているところです。

時代が加速化されてしまいました。さら全国の教員養成学部には、大学間で教育課程の連携を実現するために大学等連携推進法人制度を検討し、連携教職課程を創設することを求めています。和歌山大学も近い将来、他大学と双方のメリットを共有した教育課程上の連携をスタートさせる日が来るかもしれません。

全国の国立大学系教員養成大学・学部を巡る動向について、中央教育審議会では二〇二〇年代の実現すべき「令和の日本型学校教育」で目指す学びの姿として、「個別最適な学び」と「協同的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」を実現させることを希求しています。Society5.0時代の到来に対応し、教師の情報活用能力、データリテラシーの向上が一層重要視され、ICTを活用した指導力、プログラミング教育、STEAM教育、SDGs など様々な対応が求められる

このように学校教育において新たな戦略的な指針が示されるなか、和歌山大学教育学部は、和歌山県や大阪府等の教育事情を鑑み、多くの学生さんを教師として、教育力と実践力を身に付け現場に送り出します。ここ数年は一般企業や公務員に就職する比率が高くなり、教師を目指す志望者が低迷しているのも事実です。煩雑化する教育現場の実情からして、教師を目指す学生さんにとって明るい希望ばかりが見えてこないという状況もあり、教師の道に躊躇し始めている傾向があります。しかしながら教育学部は教員養成を担う使命を十分に果たし、多くの教育者を輩出できるよう努力していきます。

現在、大学教員は約七〇名ですが、学部構成員がチーム一体となって努力しています。紀学同窓会員の皆様のご支援とご指導、ご鞭撻を賜りますようろしくお願いいたします。

インタビュー

コロナ禍における

学生への対応について

— 脇田 淳一 学生支援課長に聞く —

脇田 課長様
こんにちは、
今回は、課長様との対話形式でこの企画を進めていきたいと思いたいで、よろしくお願いたします。(聞き手は二十五期南良和)



Q3 ところで、二〇二〇年は新型コロナウイルスへの初めての対応で大変ご苦労されたかと思いますが、学生の課外活動等へどんな対応をされてきましたか？

A 先ずは、学生への感染拡大を防ぐため、課外活動等(練習、対外試合や合宿、ライブ等催し物、懇親会、コンパ等)について自粛等の要請を行いました。具体的には次に示す通りです。
《11・27》26日に罹患学生一名を確認したため、全学生団体の課外活動の一時的停止を通過

《11・28》新たに罹患学生三名を確認したため、全学生団体の課外活動の一時的停止延長を通過

《11・30》教学担当理事名で訓示。新型コロナウイルスに感染しない、感染させないように行動することを要請
《12・1》安全確認のとれた学生団体に対し、活動再開を許可

《12・4》大阪府において十二月二十五日までの不要不急の外出自粛期間延長を呼びかける「医療非常事態宣言」が出されたことを受け、全学生団体の活動を十五日まで禁止
《12・15》大阪府において十四日、不

要不急の外出自粛期間延長を受け、本学の学年歴を考慮し、全学生団体の活動を令和三年一月十五日まで禁止を延長

《1・5》感染拡大が一向に止まらないため本学の学年歴を考慮し、全学生団体の活動を翌年一月十八日まで禁止を再延長

《1・13》関西三府県を含む全国十一都府県に対し、再び緊急事態宣言が発出されたことを受け、全学生団体の活動を二月七日まで禁止を再々延長

このように、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、大学が実施する課外活動の停止のほか、各連盟等が行う大会中止・延期の影響を受け、二〇二〇年度は、ほとんどの学生団体が試合等に出られなくなりました。

以上のように、新型コロナウイルス対応に日々明け暮れた一年であったように感じています。

〔学生寮について〕

学生寮は、本学においては最も感染拡大リスクが高く、少しでもそのリスクを下げるため、寮内で罹患者が発生した場合の濃厚接触者退避場所を男子寮一階フロアに十二室、女子寮一階フロアに十室確保。寮の出入口を濃厚接触者とそうでない寮生を完全隔離するための施設を改修し、シャワールームを設置しました。

〔外部からのご支援〕

和歌山大学消費生活協同組合様から「コロナ禍で困窮する大学生に食を支援」するためにレトルトカレーなど食品を千五百名分を用意していただき、

大学寮生全員と大学生協に來た学生に無料配布しました。それ以外にも大学後援会や各学部OB会等からも支援頂いています。

例に示した約二ヶ月間だけでも、コロナ対策の国や県等の動向を鑑みて感染拡大防止や安全対策に奮闘されてきたことがよく伺われます。そんな中でも少しでも学生の活動ができるように尽力されてきました。その一例として、一年生を対象とした和歌山大学祭の代替行事『GOTOワダイ』を上級生に企画依頼し、入学後大学構内に来る機会が少ない一年生に「友達づくり、仲間づくり」をテーマに交流会、文化会、体育会、音楽鑑賞会等様々なイベントを実施しました。

Q4 以上のように、コロナ禍対応での学生生活をサポートするに当たっては、大学当局と学生の「はざま」的存在にあって、ストレスもあるし大変なご苦労ですが、課長さんが常日頃「心がけている事やモットー」とされている事」を最後にお聞かせください。

A 一番に心がけていることは、「学生さんには、大学生活を充実させてほしい」ということです。「学生さんあつての大学」、工作上、立ち位置が難しいですが、「学生の代弁」できる部署がなかったらいけないと思っています。「上から目線」ではだめ！そんな事を心がけて仕事をやっていくことが私の「生きがい」です。

『コロナに負けずに、頑張り！和歌山大学生』というメッセージを強く感じました。

Q2 脇田課長様は、和歌山大学(本課)に勤められて何年になられますか？
A 昭和六十二年から勤務していますので、三十四年になります。学生支援課では六年目になります。

Q1 私には聞き慣れない課名ですが、普段はどんなお仕事をしていますか？
A 本課は真砂や高松の旧キャンパスでは、「補導厚生課」とか「学生課」と呼ばれていました。仕事内容は、現在の課名の通り学生の課外活動のお世話や下宿、アルバイトの紹介、奨学金関係の事務、学生の困り事の相談窓口等学生に対して支援、いわば大学の学生側の窓口全般を担当しています。

『コロナ禍と授業』

今回は紀学同窓会理事でもありますお二人の先生のお取り組みを紹介させていただきます。

時代とともに変遷する大学

教授 豊田 充崇
とよだ みちたか

教育学区部の「ニューノーマル」 准教授 尾上 利美
おのえ としみ

私は、和歌山市にて生まれ育ち、平成三年に和歌山大学教育学部入学（四十三期生）、その後同大学院教育学研究科（三期生）を修了後に、県内で中学校社会科教員となりました。五年間務めた後、平成十四年度に和歌山大学教育学部専任講師として採用となり、今に至ります。専門分野は「情報教育」で、情報活用能力の育成にはじまり、プログラミング教育からネット依存予防まで幅広く網羅し、それらの実践的研究（授業づくりや教材制作等）を主軸としております。教育現場での経験を活かし、自ら諸学校で出前授業を続けており、「自分ができない教育理論は提案しない」「教材の良し悪しは自ら検証する」を研究スタンスとしています。

そのため、各種学校・教育委員会等を訪問する機会が多いのですが、ここでは、多数の本学出身者が活躍しております。大学時代の談話に花を咲かせることもよくあります。

私が和歌山大学に入学した当時は、自動車での入校規制やゲートもなく、一回生からマイカー通学が可能で、敷地内でのバーベキュー・ゼミ室での鍋パーティーなども連日行われていたものです。現在は、学内での飲酒はもちろん、喫煙についても全面禁止となっています。

(5)

母校へ赴任してから早十二年が過ぎました。英語教育が専門で、特に小学校における外国語（英語）教育について研究を進めています。「十年一昔」という言葉にあるとおり、この間に、小学校での英語の扱いは大きく変化し、今では、高学年児童は教科として週二時間、中学年児童は領域として週一時間、外国語（英語）を学習しています。これに伴い、小学校教諭一種免許状を取得する七十一期生からは「初等英語科教育法」（教職共通）が必修となっています。

コロナ禍の中でよく耳にするようになった「ニューノーマル」という言葉は、「新しい生活様式」や「これまでとは異なる社会のあり方や価値観」という意味で使われています。先に述べた小学校での英語の教科化と早期化、教員免許取得のための科目の追加は、私の専門分野および教育学部のニューノーマルの一つです。

大学授業でのニューノーマルといえば、授業でノートパソコン等の情報端末が活用されていることです。平成二十九年入学の学部生からBYOD（個人所有の情報端末必携化）が実施され、昨年度のコロナ禍の中で始まった遠隔授業を契機に、これらの活用は一気に加速しました。遠隔授業が始まった当初は、チャットやテレビ会議等ができる「チームズ」、学習管理システムの一つで授業資料配布やレポート回収等に重宝する「ムードル」の設定や操作に、私も学生も手探り状態でした。

しかし、今では、「レポートは、ムードルのレポート提出箱へ期日までに提出してください。」と学生に伝えるだけで、レポートがWeb上の指定の場所に提出され、誰がいつ提出したのかも記録されます。また、これらのレポートの評価が済めば、個人宛宛てにコメントを通知する機能も備わっており、紙媒体に一度も印刷をすることなくWeb上で全て完結させることが可能です。対面授業に戻った日々の授業においても、机上に筆記用具と共に情報端末が並ぶ光景が「普通」になっています。

今年度もコロナ禍の中ではありますが、感染拡大防止を図りつつ対面での授業が行われています。長期にわたる遠隔授業を経て大学に登学した学生は「ここにみんなといることがただただ嬉しい」という様子です。これまで当たり前だった「大学の教室で空間と時間を共有して学ぶこと」の意義を考えるようになったことも、ニューノーマルの一つではないかと感じています。



大学院教職シミュレーション室でのタブレット利用の講義の様子



通常授業の様子

各支部活動のようす

2 未定

◇田辺・西牟婁支部

- 1 令和二年度支部活動について
- 2 令和三年度支部活動計画について

◇和歌山市部

- 1 コロナ禍のため活動せず
- 2 七月頃 理事会
 - ・支部役員改選
 - ・行事計画

十月頃 理事会
・役員研修

◇海南・海草支部

- 1 コロナ禍のため活動せず
- 2 評議員会をコロナの状況により開催検討中

◇那賀支部

- 1 コロナ禍のため活動せず
- 2 特になし

◇橋本・伊都支部

- 1 コロナ禍のため活動せず
- 2 支部卒業者名簿作成

◇有田支部

- 1 評議員相互の連絡活動等
- 2 コロナの状況に応じて計画予定

◇御坊・日高支部

- 1 コロナ禍のため活動せず

2 未定

◇田辺・西牟婁支部

- 1 コロナ禍のため活動せず
- 2 四月 理事会開催予定

◇新宮・東牟婁支部

- 1 コロナ禍のため役員会を1度開催したのみ
- 2 役員会開催予定

◇堺支部

- 1 四月 事務局会
 - ・本年度の活動について
 - ・人事異動、近況等情報交換
- 2 事務局会
 - ・名簿更新
 - ・総会、懇談会中止決定

六月

- ・会員情報収集・名簿更新
- ・コロナ禍における支部活動
- ・会員相互の交流

◇大阪支部

- 1 大阪紀学同窓会総会は中止
- 2 現任教員と学校運営等についての連絡相談

- 2 十一月二日 総会開催予定

- 大阪紀学同窓会名簿作成
- 会員募集の強化
- 現役先生方の研修会

◇関東支部

- 1 コロナ禍のため活動せず
- 2 未定

◇淡路支部

- 1 コロナ禍のため総会懇談会は中止
- 2 令和四年一月上旬 総会・懇談会

◇福井支部

- 1 コロナ禍のため活動せず
- 2 柑芦会福井支部との合同総会

「神宮大会」今昔

硬式野球部が四年ぶり二度目の全国大会（神宮大会）に出場しました。前回は八強に進出し、今回は二回戦で慶応大学（今回優勝校）に惜敗しましたが、国立大学の鮮やかなノーサイン野球が注目を集めました。



全国大会（神宮）出場決定の瞬間（2021. 6. 20）



予科野球部員（1940年代）
宮崎渉氏提供

紀学文庫で

未来が見える！

紀学文庫担当 **福田 光男**
ふくだ みつお

紀学同窓会には、紀学文庫があり、同窓会員の皆様の珠玉のご著書が寄贈されています。和歌山大学図書館の一角に紀学文庫はずらりと並んでいます。教育に関するご著書は勿論のこと、歴史・科学・スポーツ・随想・詩集・県下小中学校の百周年誌等々があります。

教育に関するものとしては、不易に関するものが多数あります。ご著者の方々が経験された想いが満ち満ちています。

最近の教育界をみると、流行に流されていく傾向が強いように思われます。流行のものを先生方も子ども達も有効に使うためには、不易の部分を大切にすることが必要でしょう。その際に、活きるのが紀学文庫です。紀学文庫を読むと、子ども達の未来が見えてきます。

また、教育界だけではなく、我々のこれからの未来の生き方・生きがいへの示唆も与えてくれます。

紀学文庫の皆様の想いを我々の未来に活かしましょう。みなさん、ご本を手にとってみてください。

（最近の寄贈本）

高田谷智恵著（六期）「木蓮咲かず」

「レモンの木」、永廣禎夫著（八期）

「歌文ノオト2」「行行抄抄」、岡村周成共編（十五期）「クアラールプール日本人墓地」

日本人墓地」

教員採用試験と

模擬面接

模擬面接担当 家崎 豊和
いえさき ともかず

和歌山県の教員採用試験は昨年からの日程、内容が大きく変わりました。6月末の一次試験は筆答試験だけで、一次試験の合格者に二次試験で小論文、実技と集団面接(8月初旬、30分)、個人面接(8月下旬、20分)が課されるようになりました。内容的にも模擬授業がなくなり、小学校の実技では水泳かオルガン演奏のどちらかを選択すれば良いなど軽減が図られています。また大阪府や大阪市、堺市では6月末に一次試験で筆答試験が行われ、7月初旬に個人面接、8月末〜9月に再び個人面接や模擬授業、実技等が行われています。

ホームページを

ご覧下さい

HP担当 鎌田 淳一
かまた じゅんいち

ホームページは、本会理事の豊田充崇教授の管理のもと、本会の様々な情報の提供に努めています。

「紀学同窓会」で検策し、メニューのホームから、「会報」、「写真集」等いろいろページをご覧ください。

ホームページのアクセス数は、一日平均百十件程度を推移していますが、同窓会会員の閲覧は、一日十五〜二十件程度です。

コロナ禍で諸行事が中止される現状ですが、会員相互のつながりを保つ一助となれと思います。今後とも更新に努めていきますので、ご活用ください。

また、会員みなさまの寄稿もお願いいたします。

郵送…〒640-8510

和歌山市栄谷930

和歌山大学教育学部紀学同窓会

担当者宛

TEL 073-457-7203

メール…info@kigaku.sakura.ne.jp

問合せ…豊田 充崇 宛

toyoda@wakayama-u.ac.jp

令和七年度版の会員

名簿発行に向けて

名簿担当 大江 嘉幸
おおえ よしゆき

前回の名簿発行は令和元年九月でしたが長年、課題となっていたのは、名簿冊子の軽量化をどのように図るかということでした。前副会長の中浴玲子さんから担当者は、・昭和五年までを氏名のみとすること、・住所不明者の項を設けること、・本文を二段組にすることを決定。この三点でかなり頁数が減少し軽量化されたため、購入者の方々から好評を得ることができました。

次回の発行は、令和七年(2025年)九月に予定しています。今後とも軽量化を目指しつつ、より正確な会員の情報を収集して作成に努めます。皆様方の情報提供など御協力の程よろしくお願ひ致します。会員名簿は、同窓会活動を充実・発展させていくために不可欠なものです。同窓会活動の充実は、和歌山大学・教育学部及び教職員、学生への応援メッセージとなることでしょう。

なお、住所変更等ありましたら左記へハガキで郵送ください。
〒640-8510
和歌山市栄谷930
和歌山大学教育学部内 紀学同窓会

根上り松のこと

会長 岡村 周成
おかむら しゅうじょう

私の在学当時、真砂丁の奥山一帯には数本の根上り松が生えていました。県の天然記念物に指定を受けていましたが、現存しているのは附属小・中学校のグラウンド中央の一本だけになりました。推定樹齢四百年、幹回り三m、根上り部分の高さ二・五mの威容を誇っています。

しかし、さすがに樹勢に衰えが見られ、樹木医に依頼し、消毒や地下の根の環境改良等の保全工事を年次的に進めています。これらの経費は県・学部・紀学同窓会・附属小・中学校各同窓会から拠出されています。

機会があれば、幾世代をも生き抜いてきました根上り松の「令和」での雄姿と対面して頂ければと思います。



令和二年度 紀学同窓会会務報告

令和2・4・5	入学式…教育学部新入生 学校教育教員養成課程 一七〇名 教職開発専攻 二一名 (外国人留学生はありません。)
4・13	事務局会…コロナ禍の為中止
5・15	理事会…コロナ禍の為中止
6・9	会計監査…令和元年度会計決算監査
6・9	評議員会…コロナ禍の為中止
6月	第一回 学生模擬面接 コロナ禍の為中止
6月	第二回 学生模擬面接 コロナ禍の為中止
7月	堺支部総会…コロナ禍の為中止
8・19	三役会…会務・会計決算・事業計画・予算・その他
9・4	三役会の審議結果について(報告)…通知を郵送
10・9	支部活動費補助…送金
10・24	和歌山大学同窓会・ホームカミングデー…コロナ禍の為中止
10・27	紀学文庫搬入
11月	大阪支部総会…コロナ禍の為中止
11月	関東支部総会…コロナ禍の為中止
令和3・2・11~12	根上がり松の保全工事
2・26	三役会…来年度の計画・役員・理事人事について
3・23	三役会…来年度の計画・役員・理事人事について
随時	根上がり松の保護・手入等実施
随時	ホームページ随時更新
3・25	卒業式…教育学部卒業・修了生 学校教育教員養成課程 一六七名 学校教育専攻 一四名(一) 教職開発専攻 一九名 ※(一)書きは、外国人留学生を内数で示す。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と参加者の安全確保を最優先し、卒業・修了生のみ出席とし、学位授与式への出席については任意とする。また、家族の来場についても、儀式の模様のインターネットでのライブ配信・視聴に代替する。

令和三年度 紀学同窓会役員名簿(順不同)

- 会長 岡村周成
副会長 大江嘉幸 旅田利枝子
南 良和 家崎豊和
鎌田淳一
- 会計 田窪佳寿子
監事 林 秀晃 北畑嘉之
鳥居賀柄子
- 顧問 本山 貢 中井澄明
理事(・印は事務局)
・豊田充崇 池田拓人 尾上利美
梶村麻紀子 太田 實 杉浦 至
・岡 美穂・岩橋邦明・道下雄三
・福田光男・小松龍三
・武木多香子・藤田直子・西川厚子
・藤本典子・梅本優子・加藤正彦
・勝本泰弘 石田晋司
- 評議員(◎支部長)
和歌山市支部
◎増田泰久 松下 太 庄田光伸
松山 祐 山本 武 青山穆子
太田 徹 山本静章 宮崎弘志
海南・海草支部
◎馬場将仁 土田孝男 南條俊樹
野崎和男 高岡成豪
- 那賀支部
◎北田勝博 山田敬夫 松下 裕
橋村泰爾 安居 理 前川佳博
橋本・伊都支部
◎森本晃司 加藤久規男 今田 実
下村克彦 喜多秀行
- 有田支部
◎上田和幸 宮井哲也 岩本明児
守法善明 宮崎庄三 下坊利之
- 御坊・日高支部
◎古家禾積 寒川正美 向井忠晴
岡本哲司 田中康雄 芝田博文
田辺・西牟婁支部
◎津村 均 山本昌二郎 前岩 崇
堀口和夫 山本ちづき 濱野公二
新宮・東牟婁支部
◎山口史朗 倉内厚生 藪中敬滋
田中弘倫 山本雄才
- 堺支部
◎中村喜久夫 戸井武彦 島崎幸司
瀨本教行 川北泰男 西田光良
大阪支部
◎出口健次 古谷昭雄 島田直人
中村嘉孝 豊田雅弘
- 関東支部
◎栗栖武彦 西山登朔 柏木輝也
山田早百合 鈴木泰子 下 公子
淡路支部
◎本條滋人 森長和代 近藤幸常
沖津裕司 島野善文
- 福井支部
◎木本 茂 川畑晃治 石川昌子
木本純二 高本俊明

発行 紀学同窓会
(和歌山大学教育学部 同窓会)
事務局 広報 南 良和
〒640-8510 和歌山市栄谷930
電話 073-457-7203